

福音をのべ伝える喜び（大人の教会学校 2019.1月）

「主はほかに七十二人を任命し、ご自分が行こうとするすべての町や村に二人ずつ先にお遣わしになった。そして彼らに言われた。『収穫は多いが働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるよう、収穫の主に願いなさい。行きなさい。わたしがあなたがたを遣わすのは、狼の中に小羊を送り込むようなものである。財布も袋も履物も持って行くな。誰にも道で挨拶するな。』」（ルカ12・1～4）

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

今日の主日の福音（ルカ10・1～12、17～20）は、次のことをわたしたちに語ります。

イエスは独りきりの宣教者ではありません。イエスは独りでご自分の使命を果たそうとは望みません。むしろ、ご自分の弟子をかかわらせます。今日、わたしたちは、イエスが十二使徒以外に七十二人を招いて、神の国が近づいたことを告げ知らせるために、二人ずつ村々に遣わされたのを目にします。これはとてもすばらしいことです。イエスは独りで行動することを望みません。イエスは神の愛を世にもたらすために来られました。そして交わりの様式をもって、兄弟愛の様式をもって、この愛を広めようと望みます。そのためイエスは直ちに弟子の共同体を作ります。それは宣教する共同体です。イエスは直ちに彼らを宣教に出掛けられるように養成します。

しかし、注意すべきことがあります。弟子たちの目的は、人々と付き合うこと、ともに時間を過ごすことではありません。彼らの目的は、神の国をのべ伝えることです。そしてそれは緊急に必要とされています。それは現代においても緊急に必要とされています。おしゃべりで失ってよい時間はありません。すべての人の同意を待つことなく、出掛けていき、のべ伝えなければなりません。

イエスが自分に先立って遣わした七十二人とは、いかなる人々でしょうか。彼らをはだれを表しているのでしょうか。十二人は、使徒であり、それゆえその後継者である司教たちをも表します。そうであれば、この七十二人は他の叙階された役務者である、司祭と助祭を表すといえます。しかし、もっと広い意味で、わたしたちは、教会の他の奉仕者のことを考えることができます。すなわち、カテキスタ、小教区での宣教に関わる信徒、病者やさまざまな障害者、社会から除け者にされた人のために働く人々です。しかし、これらの人々もつねに、み国が近づいていることを緊急に告げ知らせようとする、福音の宣教者です。すべての人は宣教者にならなければなりません。すべての人は、イエスの招きを聞いて、出掛けていき、み国をのべ伝えることが可能です。

《教皇フランシスコのメッセージ 2013年7月7日
<https://www.cbcj.catholic.jp/2013/07/07/6993/>》

イザヤ6・1～8 ②第一コリント15・3～11 ③ルカ5・1～11) について。「主日の聖書朗読〈C年〉」教友社 兩宮 慧 》